

岐阜地区社会教育だより

～つながり 支え合い 育む 地域の教育力～

令和8年9月

岐阜地区社会教育担当

地域・家庭・学校の連携による教育力向上をめざして

7月30日（木）、各務原市産業文化センターにて「令和8年度 岐阜地区 地域・学校・家庭の連携による教育力向上研究大会」を開催しました。本大会は、地域の子どもたちの学びと成長を支える団体や個人、保護者、学校の教職員等が一堂に会し、実践発表やグループ交流を通して「みんなで子どもを育てる」意識を高めるとともに、三者の連携の大切さを再認識することを目的としています。

会長の思い（開会あいさつより）

私は、「子どもたちの声や思いを地域の力に」という言葉を大切にしています。私たちはつい、「子どもたちを支える」という視点で考えがちです。しかし、子どもたちは支えられるだけの存在ではありません。一生懸命に活動する姿、地域を思う純粋な願い、新しい発想や挑戦は、私たち大人や地域にたくさんの気付きや元気を与えてくれます。大人が子どもを支え、子どもが地域に元気を与える。そんな幸せな循環が生まれる地域こそ、私たちが目指す地域の姿ではないでしょうか。「明日から自分にできることを一つやってみよう」地域の未来は、特別な誰かがつくるものではありません。今日ここにお集まりの一人一人の小さな行動から生まれます。

◇研修 「地域とともにある学校づくり」 岐阜県環境エネルギー生活部 県民生活課 伊藤貴範

（1）岐阜地区の現状

- ・コミュニティ・スクール導入率 100%
- ・地域学校協働本部 設置率 76%

＜成果＞ 願いや課題を共有、特色ある教育活動の具現
＜課題＞ 取組の啓発、関係者の温度差

（2）地域とともにある学校づくり

- ・学校運営協議会（作戦会議） 共通の目標に向かって、立場を超えた対話を大切にしたい。
- ・地域学校協働活動（作戦の実行） 子どもが主役になり多様な大人がそれを支える活動を展開したい。

（3）子どもたちの声を生かす

- ・地域や社会をよくするために何かしたいと考えている子どもは多く、防災やまちづくりなど地域の現状に目を向けている。

（4）各務原市の取組（ふれコミ隊）

- ・学校や学年の枠を越え、様々な社会活動（ボランティア、清掃活動等）に積極的に参画している。
- ・活動を通して、子どもたちは「やってよかった」という充実感や必要とされる喜びを感じている。



【各務原市ふれコミ隊 街頭啓発活動】

◇実践発表 「中学生と共に 子どもの成長は地域みんなの喜び」 笠松町社会教育委員の会代表 中島 浩 様

中学生が地域に求められ、地域のために貢献したいという願いや、お飾りのボランティアではなく、もっと主体的に取り組んでほしいという課題について、生徒会と地域の大人でミーティングを行った。中学生の思いを聞き、思いを実現するために何ができるか語り合うことで、様々な取組が生まれている。

実践① 中学生＋道徳のまち笠松推進会議

保育所で「あいさつ絵本」を読み聞かせ、温かい挨拶を笠松町に広める取組

実践② 中学生+笠松町民一斉「会い・EYE・挨拶ラジオ体操」

ラジオ体操の手本となり、参加者のふれあいゲームを運営する取組

実践③ 中学生+笠松町スポーツゴミ拾い（スポゴミ）

地域の人と一緒に美化活動を行い、拾ったゴミの量や質を競う取組

実践④ 中学生+こどもわくわく広場

中学生がスタッフとして小学生に体験ふれあいの場を提供する取組



【笠松町 実践発表】

実践発表についての感想

- ・中学生が地域の中で活躍し、貢献し、自分を表現する姿が素晴らしい取組だと感じました。（学校）
- ・道徳のまちという青少年育成の基本方針のもと、中学生を積極的に活動に引き込み、様々な社会体験をさせているところが評価できる。参加から参画に移行しているところを学びたい。（社会教育委員）
- ・学校を卒業した後のボランティア登録をし始めたことに大変意義を感じた。在学中にやればいいのかではなく、その精神を引き続きもてるような環境づくりされているのが大変参考になった。（行政）
- ・中学生をスタッフにすることで、気持ちの持ちようが変わる。とても参考になりました。（公民館）
- ・地域とのつながりが、その地域に住まう子どもの心理的安全性につながると改めて思いました。（学校）

◇グループ交流 「地域と学校の連携について」



【グループ交流の様子】

グループ交流の感想

- ・どの方も実践を持って参加しているので、大変参考になった。お互いに聞きたいことを聞き、話したいことを話せた。交流会は満足度が高い。（社会教育委員）
- ・自分の地域での話や近所の地域の話聞く機会はたくさんあります。しかし、これだけ広域な方々と交流することはなかなかないので、いろいろな発見や「これ、やってみよう！」がいっぱいありました。また機会があったら参加してみたいです。（公民館）
- ・地域によって特色が違うことに改めて気づきました。だからこそ、地域と学校が意図的に繋がりを作る仕組みと、それを無理せず持続可能な形にデザインすることが大事だと思いました。互いに Win-Win の関係になるよう対話を重ねる必要があると思いました。（学校）
- ・他の地域の方々との交流で、中学生と地域を繋ぐ取組を教えていただいたので、学校に情報共有するとともに、今後の取組を検討していきたい。（PTA）
- ・グループ内にたくさんの立場の方が集まっていて新鮮な意見を聞けたし、一つの事象からどんどん意見が出て広がって良かったです。皆さんがそれぞれ地域の子どものためにたくさん考えていらっしゃる方ばかりだったので、こういう意見を伝え合い、この場から広がって行くといいなと思いました。（行政）

◇大会を振り返って ～子どもと地域が育ち合う循環をめざして～

大会を通して、子どもたちは支えられるだけの存在ではなく、地域に元気や新たな気付きをもたらす大切な存在であることを改めて実感しました。大人が子どもを支え、子どもが地域を元気にする。そのような幸せな循環を生み出すために、これからも地域・家庭・学校が手を携えながら、一歩ずつ歩みを進めていきたいと思ひます。